

2022 年制定 コンクリート標準示方書[設計編]
正誤表

2024/1/11

ページ	行	誤	正																																																				
169	23	亜鉛めっき鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計・施工指針 (案)	亜鉛めっき鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計・施工指針(案) (コンクリートライブラリー154)																																																				
347	解説表 5.2.2	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">セメントの種類</th> <th colspan="6">$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$</th> </tr> <tr> <th colspan="2">$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$</th> <th colspan="2">$r=g+h \times T_a^{(注1)}$</th> <th colspan="2">$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>g</th> <th>h</th> <th>a</th> <th>b</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高炉セメント C種^(注3)</td> <td>21.6+0.0586×C^(注2)</td> <td>-0.0696+0.00038×C</td> <td>-0.948+0.00219×C</td> <td>0.0817+0.00004×C</td> <td>0.629-0.00005×C</td> <td>0.054-0.00003×C</td> </tr> </tbody> </table>	セメントの種類	$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$						$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$		$r=g+h \times T_a^{(注1)}$		$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$		a	b	g	h	a	b	高炉セメント C種 ^(注3)	21.6+0.0586×C ^(注2)	-0.0696+0.00038×C	-0.948+0.00219×C	0.0817+0.00004×C	0.629-0.00005×C	0.054-0.00003×C	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">セメントの種類</th> <th colspan="6">$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$</th> </tr> <tr> <th colspan="2">$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$</th> <th colspan="2">$r=g+h \times T_a^{(注1)}$</th> <th colspan="2">$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$</th> </tr> <tr> <th>a</th> <th>b</th> <th>g</th> <th>h</th> <th>a</th> <th>b</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高炉セメント C種^(注3)</td> <td>21.6+0.0586×C^(注2)</td> <td>-0.0696+0.00038×C</td> <td>-0.948+0.00219×C</td> <td>0.0817+0.00004×C</td> <td>0.629-0.00005×C</td> <td>0.054-0.00003×C</td> </tr> </tbody> </table> <p>※下段、右側の2つの式に漏れていた小数点を追記</p>	セメントの種類	$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$						$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$		$r=g+h \times T_a^{(注1)}$		$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$		a	b	g	h	a	b	高炉セメント C種 ^(注3)	21.6+0.0586×C ^(注2)	-0.0696+0.00038×C	-0.948+0.00219×C	0.0817+0.00004×C	0.629-0.00005×C	0.054-0.00003×C
セメントの種類	$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$																																																						
	$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$			$r=g+h \times T_a^{(注1)}$		$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$																																																	
	a	b	g	h	a	b																																																	
高炉セメント C種 ^(注3)	21.6+0.0586×C ^(注2)	-0.0696+0.00038×C	-0.948+0.00219×C	0.0817+0.00004×C	0.629-0.00005×C	0.054-0.00003×C																																																	
セメントの種類	$Q(t)=Q_{\infty}(1-e^{-r(t-t_0)^S})$																																																						
	$Q_{\infty}=a+b \times T_a^{(注1)}$		$r=g+h \times T_a^{(注1)}$		$t_0=a \times \exp(-b \times T_a)$																																																		
	a	b	g	h	a	b																																																	
高炉セメント C種 ^(注3)	21.6+0.0586×C ^(注2)	-0.0696+0.00038×C	-0.948+0.00219×C	0.0817+0.00004×C	0.629-0.00005×C	0.054-0.00003×C																																																	
368	6	(i)引張鉄筋の基本定着長 l_d は、式(2.5.1)による算定値とする。ただし、標準フックを設ける場合には、この算定値から 10ϕ だけ減じることができる。	(i)引張鉄筋の基本定着長 l_d は、式(2.5.1)による算定値とする。ただし、標準フックを設ける場合や特性が標準フックと同等であると確認された機械式定着とする場合には、この算定値から 10ϕ だけ減じることができる。																																																				
368	18	(3) 定着部が曲がった鉄筋の定着長のとり方は、以下のとおりとする(図 2.5.2 参照)。 (i)引張鉄筋の基本定着長 l_d は、式(2.5.1)による算定値とする。ただし、標準フックを設ける場合や特性が標準フックと同等であると確認された機械式定着とする場合には、この算定値から 10ϕ だけ減じることができる。	(3) 定着部が曲がった鉄筋の定着長のとり方は、以下のとおりとする(図 2.5.2 参照)。 (i) 曲げ内半径が鉄筋直径の 10 倍以上の場合は、折り曲げた部分も含み、鉄筋の全長を有効とする。																																																				

	<p>(ii) 圧縮鉄筋の基本定着長 l_d は、式(2.5.1)による算定値の 0.8 倍とする。ただし、標準フックを設ける場合でも、これ以上減じてはならない。</p> <p>(iii) 定着を行う鉄筋が、コンクリートの打込みの際に、打込み終了面から 300 mm の深さより上方の位置で、鉄筋の下側におけるコンクリートの打込み高さが 300mm 以上ある場合、かつ水平から 45° 以内の角度で配置されている場合は、引張鉄筋または圧縮鉄筋の基本定着長は、(i)または(ii)で算定される値の 1.3 倍とする。</p>	<p>(ii) 曲げ内半径が鉄筋直径の 10 倍未満の場合は、折り曲げてから鉄筋直径の 10 倍以上まっすぐに延ばしたときに限り、直線部分の延長と折曲げ後の直線部分の延長との交点までを定着長として有効とする。</p>
--	--	--